



AAMT

The Asia-Pacific Association for Machine Translation

Journal

No.23
July 1998

アジア太平洋機械翻訳協会

目 次

エッセイ	情報技術の国際標準化と機械翻訳	1
技術早分かり	電子協日英対訳コーパス	2
講演会参加報告	翻訳専門家にとっての機械翻訳とは	6
留学生雑感	アルゼンチンのスペイン語にはない日本語の音素	10
新製品紹介	●英日翻訳支援ソフト「PowerE/J Ver. 3.0」	14
	●The 翻訳オフィス	16
商品一覧表	機械翻訳関連ソフトウェア一覧表	18
総会報告	第8回通常総会および関連行事の報告	24
MT Summit	MT Summit VII September 1999 Singapore	26
新刊図書の紹介	翻訳の曼荼羅	28
イベント紹介	テクニカルコミュニケーションシンポジウム'98	28
事務局だより	協会活動報告	9
	役員の紹介、委員の交替	25
	委員および研究会メンバーの募集	27

情報技術の国際標準化と機械翻訳

慶応義塾大学教授 石崎 俊

最近は大学での研究や学生の指導に関係する研究教育ばかりでなく、学会活動や国に関係する仕事が増えつつ多くなる傾向があります。これは、年齢的な要因もあるかも知れません。若い研究者が創造的な研究を犠牲にしてこのような仕事に時間を割くよりも、私くらいの年齢層の人が関わった方が全体としての効率はいいかも知れません。しかし、いつまでも第1線の研究者でありたいものだと思っています。米国では年齢に関係なく研究に専念できると聞いていますが、一方ではNSFなどからの予算取りで膨大な資料を書くのが大変だそうです。「隣の芝生は青い」と言うことかも知れません。

学会の活動では、情報処理、認知科学、人工知能などでいろいろな活動していますが、機械翻訳に関係した最近の話題では、多言語情報処理プロジェクトという通産省工業技術院標準部が平成9年度から始めたプロジェクトに関係しています。実施母体は、しばらく前に「近隣諸国間の機械翻訳システム」プロジェクトを実施した(財)国際情報化協力センター(CICC)です。多言語情報処理と言っても、直接的に機械翻訳を目指すというよりも、その基盤となる言語情報処理技術の国際標準化が目標です。

アジア諸国ではさまざまな言語が使われていますが、インターネット時代に英語だけでなく自国語をPC上で十分に扱えるようにする必要があります。そのときに国際的に標準化したいのは、アルファベット、漢字、合成文字など多種の文字をコード化すること、フォントの問題、文字をコンピュータに入力するときの処理、出力するときの処理などです。これらの文字の処理は、各国が自国語と英語だけを考慮した場合は、各種の機能を内部プロセッサばかりでなく、入力や出力に持たせたりできるので、早めに標準化しておかないと、インターネットで接続した途端に方式の違いの矛盾が表面化し、そのときに修正したのでは遅すぎる心配がある訳です。

国際シンポジウムを昨年2回開催し、今年は10月にベトナムのハノイ市で計画しています。同時に開

催する予定の国際会議が「アジア情報技術標準化フォーラム」です。日本が主催するこの会議はもう10年以上続いているのですが、各国の政府の担当者が一堂に集まって国内事情や国際情勢の情報交換を行なっています。最近では参加国が増え続けている特徴があります。

もう一つ私が関係する活動として、漢字の国際標準化に関する学会活動があります。日本で使う漢字はJISで標準化されていてすべてのコンピュータで使えることはご存じだと思います。しかし、電子メールなどのコンピュータネットワークの普及で、使える漢字の種類についての意識が高まり、最近ではいろいろな要望が聞こえて来しています。

国際標準化機構(ISO)の中の情報技術を扱うJTC1のもとに文字コードを扱うサブコミッティー(SC2)があります。情報処理学会の中に情報規格調査会があってJTC1に対応していますが、その下にSC2専門委員会があって漢字も含めた文字コード全体を担当しています。そこではISO/IEC10646という国際規格の制定と修正を続けており、通常のJIS漢字ばかりでなく、JISの補助漢字と、さらに追加した漢字集合が入っています。近いうちにそれらは日本でもコンピュータ上で使えるようになる予定です。また、現在国内で検討中の新JIS漢字や、学会を通じて募集中の新しい漢字の集合が数年後には国際的な規格として制定される予定です。

このような標準化の仕事は大変地味で、ほとんどボランティア活動ですが、インターネットの普及とそれに伴った情報交換の推進に不可欠のもので、その後で機械翻訳が世界中で活躍する場を提供できると思います。また、逆に、インターネットで英語がますます普及したときに各国の文化・伝統の維持・発展も重要な課題です。国の大きさや使用する民族の人口の多さに関係なく、使用する言語の機会均等のための世界レベルの情報基盤作りが重要だと思っています。

多言語コーパスの動向 ——電子協日英対訳コーパス——

通信総合研究所 関西先端研究センター
知的機能研究室 室長 井佐原 均

1. はじめに

翻訳を行うための基礎データとして、対訳データは様々な場面で有効に使われています。翻訳支援システムにおいては、類似した例文を提示する機能は必須のものであり、機械翻訳においても、用例翻訳システムが翻訳精度の向上の有効な手だてと考えられています。自然言語処理の分野では大規模なデータを元に頑強なシステムを作ることが主流となっており、用例翻訳の基本データとしてのみならず、機械翻訳システム一般、さらには自然言語処理の研究及び実証のために大規模な対訳電子化テキストデータベースが必要とされています。

対訳データを使つての翻訳については、既に解説がありましたので、ここでは、対訳データには、どのようなものがあるかという点に焦点を当てて話を進めていきます。

2. 対訳データあれこれ

対訳コーパスにもいろいろなレベルがあり、同じ内容の2カ国語で書かれた文書のファイルをセットにしたものを標準に、章同士、段落同士、文同士の対応を付けたもの、さらに深く、文の構造や含まれ

る単語レベルでの対応を付けたものなどが考えられます。もちろん、深い対応がついているデータほど、機械翻訳システムの研究開発には有効です。また逆に、文書同士は対訳関係ではないけれど、複数言語で書かれた同じ分野の文書を集めたというデータも自然言語処理で用いる基礎データとしては有効です。同じ分野であれば、異なった言語でも同じような語彙が現れるであろうといった予測から、情報検索の分野等で、いくつかの研究が行われています。

なお、文対文の対訳について考える場合には、それが文章中での文同士の対応を付けたものであるか、一つの文とその訳文のペアを大量に集めたもので、文章としての繋がりはないもので、その利用できる範囲は大きく異なるでしょう。

世界的に見れば、このようなデータは、いろいろな機関で作られています。例えば、ELRA (European Language Resources Association) には、表1に示すような多言語コーパスが登録されています (<http://www.icp.grenet.fr/ELRA/home.html>)。しかしながら、日本語を含む対訳データとなると非常に限られてきます。これまで、日英対訳のデータとしては、講談

表1：ELRA の多言語コーパス

CRATER (ELRA-W0003)
英語、フランス語、スペイン語の多言語対訳コーパス。 1,000,000 token corpora, morphosyntactical annotations, lemmatisation, and term extraction routines.
ECI/MCI (European Corpus Initiative/Multilingual Corpus I) (ELRA-W0004)
主要なヨーロッパ言語や、日本語、トルコ語などのコーパス。 9800万語以上。
MLCC (ELRA-W0006)
多言語コーパス。ヨーロッパの新聞6紙のテキスト。
MLCC (ELRA-W0007)
対訳コーパス。ヨーロッパの9公用語に翻訳されたテキスト。 Written questions (10.2 million words) Parliamentary debates (5 to 8 million words per language)

図1：講談社和英辞典の記述例

あいいれな・い 【相容れない】
彼の教育方針は時勢と～い
His principles of education are out of harmony with the times.
私の考えは彼らの考えと～い
My idea runs counter to theirs.
両者の主張はどうしても～い
The assertions of both parties are quite incompatible.
この二つの方策は～いところがある
These two plans conflict with each other.

社和英辞典の中の例文（図1）など、限られたものしかありませんでした。また、新たに入手あるいは作成しようとしても、大規模な対訳文書自体があまり存在していません。日本語だけの大規模コーパスとしては、毎日新聞の記事を対象とするものがいろいろな加工形態で利用されていますが、新聞記事の完全な英訳は存在しません。もちろん、日本国内で英字新聞を発行している新聞社がありますが、日本語版と英語版との内容は、その対象読者の違いから、同じニュースを扱う場合でも、必ずしも同じではありません。このため、新聞記事の日本語版と英語版を集めたのでは、同じ分野の文書を集めたものとしては役立ちますが、翻訳のための情報としては、あまり有効ではありません。また、小説の対訳が何冊も書店で売られていますが、これを電子化し、一般に公開し、研究に利用しようとするれば、一冊ごとに著者、訳者、外国の出版社、日本の出版社の許可を得ることになり、現実的ではありません。

3. JEIDA 日英対訳コーパス

前節で述べたように、対訳コーパスは、欧米語間では、大規模に収集し、公開するという活動が既に進められています。ところが、日本語と英語との間では、著作権や費用の問題などがネックとなり、文同士の対応付け情報を含む、公共性の高いコーパスが存在していません。このため、日本電子工業振興協会では、自然言語処理に関わるの研究開発のために、日英対訳の言語データを収集し、対訳コーパスを試作することにしました。ここでは、試作作業を通して、対訳コーパス作成に関わる諸問題について議論し、さらにそのコーパスを用いて日英の文の対

応づけや、言語情報の獲得などの研究を行なうことを目的としています。

対訳コーパス化するテキストとしては、わが国の政府機関が発行している各種白書を対訳コーパスの対象として選びました。その主な理由は以下の2点です。

- (1) 作成に際して十分に時間をかけており、文章の質が高い。そして、日本語版とそれを正確に翻訳した英語版がある。

白書の文章という点、特殊な文体の文章であると思われるかもしれませんが、実際は完成版ができるまでに、時間をかけて校閲が行われていますので、新聞記事等と比べても、かなり「きれいな」文章となっています。

また、白書の英語版は、最初から英文で書かれたものではなく、日本語版を元に、文あるいは段落を注意深く英文に翻訳したものとなっています。このため、英文は、いわゆる名文あるいは意識ではなく、原文の日本語を忠実に翻訳したものとなっており、日本語と英語の文同士は比較的きれいに対応付けられています。このため、たとえば、対照言語学の立場で利用するには不適切なデータかもしれませんが、現状の自然言語処理、機械翻訳の技術レベルが、文単位の処理を中心としていることから、これらの技術の研究開発に用いるデータとしては適切なものとなっています。

(2) 商業出版物を対象とした場合に問題となる著作権に関わる制限が少ない。

白書は政府刊行物であり、他の商業出版物と比べると公的利用に対する制約が少なくなっています。ただ、英語の訳文については、別の権利が発生している場合があるようです。

日本電子工業振興協会では現時点までに「環境白書」「経済白書」「科学技術白書」について、利用許諾を得ることができました。これらのテキストを、CD-ROM 版からのデータ変換、報告書からの OCR 入力などによって電子化しました。また、ヨーロッパで進められている対訳コーパスのプロジェクト「lingua」などを参考に、TEI 形式によるフォーマットを行ないました。この段階でも、化学方程式の表現法、外字の表現法等の問題点が見つかりました。現在までに作成したコーパスの規模を表 2 に示します。日本語の文数よりも英語の文数が多いですが、これは原文が日本語であり、それを英語に翻訳したものであることによると思われます。訳者は一つの原文を複数の訳文にすることはあっても、複数の原文を一つの訳文にすることは少ないのでしょう。

この時点では、データは文書同士の対応がついて

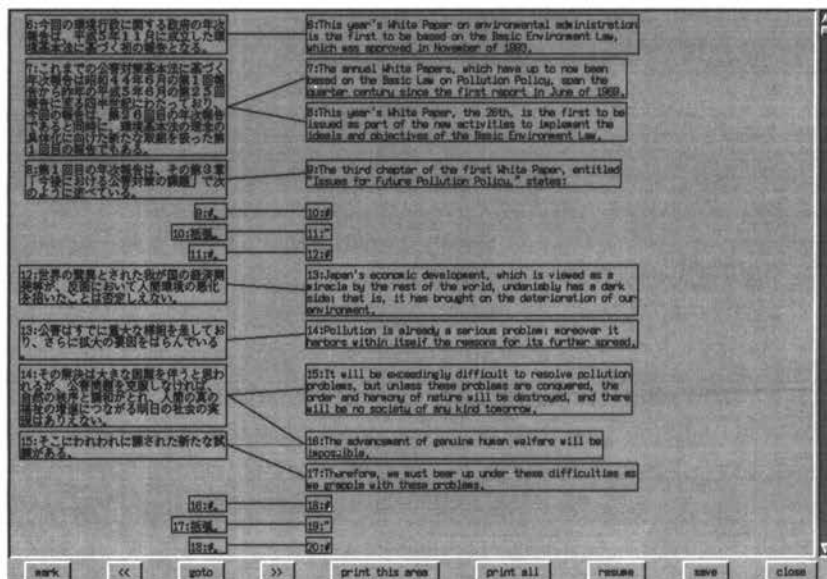
いるだけです。次にこのデータから、文の対応関係を取り出します。もし、ある文 J1 が複数の文 E1, E2, . . . , Ek の翻訳文である場合、この対応は (J1, E1), (J1, E2), . . . , (J1, Ek) という複数の対応関係で表現されます。

対応関係の取出しは、プログラムによる自動抽出と人手による後編集という 2 つの処理・作業で行います。まず、NTT コミュニケーション科学研究所のシステム [1] によって自動抽出します。次に、独自に開発したツールを用いて、人手で修正します。図 2 に人手修正用ツールの実行画面を示します。画面中央の大きなキャンバスには左に日本語、右に英語のテキストが四角に囲まれて表示されています。また、対応関係は日英の文の間を結ぶ線で表現されています。編集時には対応関係の追加・削除・属性の変更が行えます。対応関係の属性には、「機械があらかじめ付けた対応関係」、「人が追加した対応関係」、「人が削除した対応関係」があり、実際の編集画面では、それぞれ異なった色の線で表現されます。また、作業者が作業中に得た情報をできるだけ容易に残すため、コメントを記録する機能も用意されています。コメントは複数のリンクやテキストに対して書くことができます。編集が終わったら対訳データとコメントは保存機能によりファイルに保存され

表 2：対訳コーパスの規模

コーパス化した資料の種類		大きさ	見出しの数	段落の数	文章の数
環境白書（平成 6 年版）	和文	1,175K	693	2,100	4,525
環境白書（1993-1994 年）	英文	1,535K	693	2,238	6,432
経済白書（平成 7 年版）	和文	601K	332	1,291	3,080
経済白書（1994-1995 年）	英文	741K	332	1,279	3,645
経済白書（平成 8 年版）	和文	520K	339	816	2,761
経済白書（1995-1996 年）	英文	766K	339	824	3,265
科学技術白書（平成 6 年版）	和文	417K	289	948	1,738
科学技術白書（1994 年）	英文	655K	289	1,307	2,471
科学技術白書（平成 7 年版）	和文	434K	326	967	1,881
科学技術白書（1995 年）	英文	689K	326	1,277	2,695
科学技術白書（平成 8 年版）	和文	383K	254	828	1,630
科学技術白書（1996 年）	英文	604K	254	944	2,375

図2：対訳データ編集プログラムの編集画面



ます。

ここに示されている例は平成7年版環境白書からものです。この部分から、たとえば、「名詞+『の』」という日本語の構造が、どのように英語に訳されているかを見てみましょう（図3）。直訳的な“of”＋名詞」という構造に翻訳されている場合は非常に少なく、いろいろな形態の訳がでていることがわかります。このような情報を、文脈を含めて蓄積していくことで、機械翻訳の性能向上が可能になると思われます。

4. おわりに

現在、日本電子工業振興協会では、研究用に利用できる対訳コーパスの作成を行っています。これまで抽出した文対文の対応に加えて、今後は、固有名詞の対応、節の対応といった、より詳細な情報を抽出し、これらも含めた対訳データを一般に公開することを検討しています。

参考文献

- [1] 春野雅彦：辞書と統計を用いた対訳アライメント，情報処理学会論文誌 Vol.38 No.4 pp. 719-726, Apr. 1997

図3：対訳データから取出した翻訳例

今回の	this year's	"'s " の使用
政府の	(White Paper)	明示されていない
初の	first	形容詞の使用
これまでの	up to now	慣用表現（副詞的）の使用
6月の	in June	"of"ではなく"in"を使用
6月の		英文中には現れない
今回の	this year's	"'s " の使用
第26回目の	White Paper, the 26th	同格表現
基本法の	of the Basic Environment Law	"of" の使用

翻訳専門家にとっての機械翻訳とは

富士通研究所 富士 秀

近年店頭に出回っているいわゆる「翻訳ソフト」は、多くの場合、一般のパソコンユーザがインターネット上の外国語文書を斜め読みする目的で使われています。これに対して、翻訳を専門で行っている人にとって機械翻訳はどのような存在なのでしょう？ 最近開催された以下の講演会は機械翻訳に直接的に関連するものではありませんが、機械翻訳に対する翻訳者サイドからの評価や期待を伺い知ることができました。

・第9回日英翻訳国際会議 (IJET-9)

：1998年5月22, 23日 パシフィコ横浜

・The LISA Forum Japan

：1998年6月1, 2日 ラフォーレ東京

本稿では、これらの会議の中で、主に機械翻訳に関連すると思われる部分をピックアップし、筆者の主観を交えながらお話しします。

1. 第9回日英翻訳国際会議

主に日本語と英語の間の翻訳を行っている翻訳者や翻訳会社を対象とした国際会議です。主催は日本翻訳者協会 (JAT)。なお表題の「日英」は、「日本語から英語」という方向性を表すのではなく「日本語および英語」を表します。

今回の会議では機械翻訳をメインに扱ったセッションなどはありませんでしたが、全般的に機械翻訳への関心は高く、出席者のほとんどは機械翻訳に関する何らかの知識を持っているようです。しかし、現状の機械翻訳の品質を肯定的にとらえている人は少数派のようで、「現状の日英・英日機械翻訳は、翻訳作業の能率向上の観点からは能力不足である。しかし将来的に品質が上がるのであれば導入を検討したい。」という人が多いとの印象を受けました。

なお、機械翻訳研究者や開発者は「機械翻訳はど

んな場面で利用できるだろうか？」という発想をする傾向があるようですが、翻訳作業者は「翻訳作業効率化の一環として機械翻訳が使えるだろうか？」という発想をしているようです。次の項では、効率化という観点から考えてみることにします。

1.1. OA化による翻訳作業の効率化

翻訳作業は効率と質の競争であり、これを向上させるためにも作業のOA化は欠かせなくなってきています。セッション8Aの松岡直見氏の「パソコン活用による翻訳の効率化」では、氏の一步進んだ取り組みに関心が寄せられていました。

1.2. 対訳例の蓄積

松岡氏は、過去の翻訳対訳例を蓄積するための手段として機械翻訳を利用する、という一風変わった使い方をしているとのこと。まず、紙媒体の原稿の場合は、スキャナと文字認識ソフトですべて電子化します。電子化した原稿に対して機械翻訳をかけ、対訳エディタ上に対訳表示します。機械翻訳結果の中で使える部分がある場合には使い、ない場合には自力で全て翻訳します。結果として対訳エディタ上に手翻訳による対訳文書が作成されます。これを対訳形式でファイルに格納し、翻訳例として蓄積します。なお、蓄積する対訳例には、作業日付や原稿の種類、依頼元などのデータを付加し、活用の参考にするだけでなく、作業記録の統計分析にも利用しているとのこと。

1.3. 対訳例の活用

蓄積された対訳例は、以降の翻訳作業で利用します。対訳例管理ソフトは数種類出回っていますが、氏は独自の環境で作業しているようです。このときに重要なのが、文字列検索ソフトであり、検索速度や表示機能などからソフトを選択しているとのこと。

1.4. 機械翻訳利用によるメリット

松岡氏は作業記録を全て電子的に残しているため、作業効率に関する統計分析を行うことが可能です。この分析によると、機械翻訳を用いることによって効率を上げるためには次の条件が不可欠だとのことです。

- a. マニュアル等の文書であること
- b. 翻訳量が大量であること
- c. 用語（特に複合語）が登録されていること

これらの条件を満たした場合に限って、全人手翻訳より機械翻訳利用の人手翻訳において効率向上が見られることがあるとのこと。ただしこの効率向上も、必ず達成できるものではないので、現在の機械翻訳利用のメリットは、対訳例蓄積や用語統一などがメインとなっているようです。

ちなみに、現状での効率向上を妨げている大きな要因は、紙媒体の電子化とのことなので、原稿が電子化されて依頼される場合が増えてくれば、機械翻訳利用によるメリットが出やすくなるのではないかと印象を受けました。

最後に松岡氏の予稿の言葉を引用します。

「効率化を図るには、翻訳作業を一つのシステムとしてとらえ、どの部分を改善するのが最も効率的かといった視点が重要になる。効率を上げる最も有力な方法は、作業の一部を省略してしまうことである。もっと正確に言えば、その部分はパソコンに任せ、人間は、パソコンができない部分をカバーしながら全体をまとめるという方法である。もう一つの柱は、過去の実務経験を次の翻訳に反映させる方法をシステムとして構築することである。そのためにも、パソコンをツールとして活用する。」

1.5. 講演一覧

- ・パネル討論1” What Does a Translator Need to be Successful?”
- ・パネル討論2” How Can a Translator Earn More Money?”
- ・”Translation and the Brain’s Hemispheres”
Thomas Elliott
- ・「日英翻訳におけるパラグラフの再構成」
高崎栄一郎
- ・”Translating Narration Scripts”, Tom Gally

- ・「日英翻訳のリズム」板垣新平
- ・「英和訳の神話」安藤進
- ・”Is Formal Education Necessary in Translation and Interpretation?”, Jean Keyes
- ・”Legal Translating Workshop”, Richard Thieme, Ray Roman
- ・”J-E Patent Translation Workshop”, Bill Lise
- ・「前置詞を駆使した簡潔な英文を」富井篤
- ・”J-E Medical and Pharmaceutical Literature Translation Workshop”, L. Douglas Havens, Dr. Steven M. Sherman
- ・「翻訳についてのすべての疑問に答える」
時國滋夫
- ・「通訳者および翻訳者のあり方」近藤正臣
- ・”The Agency and the Translator”, Marie Speed
- ・”Translating Political Economics”, Translating Political Economics
- ・「頭からの英訳法の実例」亀井忠一
- ・「パソコン活用による翻訳の効率化」松岡直見
- ・”Is It Live or Is It Japanglist?”, Michael House
- ・「産業翻訳業界概観 ―市場動向と業界の現状」
佐藤幸浩

2. The LISA Forum Japan

Lisa (Localization Industry Standards Association) が主催する国際フォーラム。

ソフトウェアベンダの海外展開において、ソフトウェア製品をいかにして現地環境に合わせるか、という命題のもとに開かれる会議です。LISA の会員の4割がソフトウェアベンダ、4割が現地化（ローカライゼーション）企業、1割がコンサルタント会社とのこと。

ソフトウェアの現地化の中心となるのは、やはりソフトウェア画面上の文字情報の翻訳やソフトウェア取り扱い説明書の翻訳などです。しかし、ここでは単なる言語の翻訳だけでは不十分であることがわかってきています。例えば、ソフトウェアを実際に操作してみて、その状況を把握しながら最も適切な訳を選ぶなどの技術が必要となります。

ソフトウェアの現地化では、同一分野の文書を一度に大量に翻訳する必要が出てきます。このような状況では、過去の例文を蓄積・利用することによつ

て翻訳効率を上げることができます。これを支援するのが、トランスレーション・メモリ (TM) と呼ばれるシステムであり、会議では商用システムの展示や説明が行われていました。

2.1. 国連大学のプロジェクト

アスキー社元社長の西和彦氏がキーノートスピーチを行いました。西氏の話は全般的にインパクトがありましたが、氏はこの中で機械翻訳についてふれました。西氏によると、「現状の機械翻訳は性能的に問題が多いが、国連大学の提唱する UNL (Universal Networking Language) を使えば早期に問題は解決するだろう。」とのことでした。ただし、西氏の説明には UNL を用いるとなぜこれまでの問題が解決できるかについての説明がほとんどなく、説得力に欠ける印象を受けました。

2.2. トランスレーション・メモリ (TM) システム

TRADOS 社、STAR 社、IBM 社などが商用システムを展示し、TM のセッションで説明を行っていました。各社とも、翻訳者の立場に立って、翻訳効率向上のための工夫をいろいろ行っている様子でした。展示の前には常に見学者がおり、関心の高さを表していました。機械翻訳 (MT) が翻訳者にとっては未来の技術であるのに対して、TM は実用化された技術であり、作業によっては必要不可欠となっているようです。

システム構築も、ソフトウェア・ベンダがトップダウン的に作成して翻訳者に使ってもらおうというよりは、実際の翻訳作業者と一緒になって開発を行っているという印象が強いものでした。

過去の対訳例文の検索は、高速かつ自動的に行われるようになっていきます。つまり、検索ボタンなどを押すまでもなく、翻訳対象になっている文を入力して自動的に類似例文の検索を行い、自動的に表示します。さらに、一致度の高い例文があった場合には自動的に置き換えを行うようなオプションを持つようなものもありました。

これらのソフトウェアの中で、日英間の機械翻訳システムと連携しているものは見受けられませんでした。しかし、STAR 社の TRANSIT では、ヨーロッパ語間の翻訳において機械翻訳と連携することが

できるとのことです。ヨーロッパ語間の機械翻訳は、その言語の類似性から翻訳精度が比較的高く、翻訳作業の効率化に貢献する場合があります。ちなみに、この TM ソフトでは原文と過去例文の「一致度」を計算して、その値順に候補を表示するようになっていますが、ヨーロッパ語間の機械翻訳結果は「一致度が80%の過去例文」と同様の扱いで表示を行うとのことでした。一致度の定義が公開されていないためよくわからない部分もありますが、ヨーロッパ語では機械翻訳がかなり実用に近づいているとの印象を受けました。

2.3. 講演一覧

- ・ Keynote: "The Japanese software market", Kazuhiko Nishi
- ・ The Multiple Language Vendor (MLV): "How is the industry changing?"
- ・ "Training the localization workforce in Japan", moderator: Carl Kay
- ・ "Japanese culture and multimedia localization issues", Steven Forth
- ・ "Localizing websites for the Japanese market", Carl Hoffman
- ・ Company introductions
- ・ "The Five Billion Yen panel discussion": What are buyers looking for?, moderator: Y. Meersseman
- ・ Day 2 Session Introduction: "Back to the future": David MacDonald
- ・ "Japanese users' reaction to translated manuals": Naoomi Kuratani
- ・ "Japanese localization: Just the FAQ's", Hideyuki Namiki
- ・ Case Study: "Japanese Products Going Global"
- ・ "Quality Assurance Methods and Criteria": moderators: Xueni Ye, Michael Anobile
- ・ "Translation Memory Tools and Applications"
- ・ "Japanese Localization for Westerners: What is so special about Japanese localization"
- ・ "Compatibility testing for IBM localization products": Kunio Okuda
- ・ "Managing Japanese Localization Projects: Line Management's Priorities": moderator: Bill Maruchi

- ・ "Discussion on using the Internet for recruitment":
Michael Nishi
- ・ Keynote: Where is the Japanese IT business
heading?", Terry Lloyd

3. おわりに

目下のところ、日英間の翻訳作業者にとって機械翻訳は作業効率向上において直接的な役割を果たす段階には来ていないようです。しかし、翻訳者の機械翻訳に対する関心は高く、将来のためにも翻訳産業に関する動向をしっかりと把握していくことが重要であると感じました。

事務局だより

協会活動報告

(1998年4月～6月)

第8回通常総会	6月17日	①'97年度事業報告 ②'97年度決算報告 ③'98年度事業計画 ④'98年度予算 ⑤役員改選
成果報告会	6月17日	①技術動向調査委員会 ②市場動向調査委員会 ③ネットワーク翻訳研究会 ④MT Summit VIIファーストアナウンスメント
講演会	6月17日	「大翻訳時代を迎えて」 東京大学教授 西垣通氏
懇談会	6月17日	立食パーティー形式の法人・個人会員・講師参加による懇親会
理事会	5月26日	①'97年度事業報告案 ②'97年度決算報告案 ③役員改選案
会計監査	4月23日	1997年度の会計監査
運営委員会	4月21日	①'97年度事業・決算報告案 ②第8回通常総会・成果報告会の企画 ③シンガポールサミットの企画
	5月18日	①'97年度事業報告案 ②第8回総会関連行事の企画 ③シンガポールサミットの企画 ③委員会等の活動状況
市場動向調査委員会	4月17日	①坂本義行委員長就任の挨拶 ②'98年度の活動計画
	6月26日	①MT市場調査の方法 ②年間ヒアリング講師の予定 ③委員会メンバーの増員対策
技術動向調査委員会	4月3日	①'98年度の活動計画 ②UPF活動報告
	6月5日	①UPF説明・活用についてネットワーク翻訳研究会と合同会議 ②次世代機械翻訳技術の調査の進め方
編集委員会	5月25日	①AAMT Journal No. 22の反省 ②AAMT Journal No. 23の企画 ③ホームページの現状と方向
ネットワーク翻訳研究会	4月17日	①ヒアリング(東芝熊野明氏) ②'98年度活動計画
	5月22日	①ヒアリング(富士通小玉修司氏) ②成果報告会準備
	6月5日	UPF説明・活用について技術動向調査委員会と合同会議
インターネットWG	4月3日	①機械翻訳関連ソフトウェア一覧表の改定 ②ホームページの充実策
	5月14日	①'98年度の情報発信の進め方 ②機械翻訳関連ソフトウェア一覧表 の活用
	6月23日	①ホームページのメンテナンス ②委員会・WG活動の進め方
シンガポールサミットPC	5月8日	①メインテーマの検討 ②Call for Paper(論文募集)の進め方 ③プログラムの検討

スペイン語と日本語の違いについて アルゼンチンのスペイン語にはない日本語の音素

東京外国語大学大学院地域文化研究科博士前期課程 小川パトリシア

1. 初めに

ここでは、アルゼンチンのスペイン語（首都ブエノス・アイレスのスペイン語を中心に）話者が日本語を習う際、特に注意すべき日本語の音について考察してみる。スペイン語にはない日本語の音素やスペイン語とは似ているが、やや異なる日本語の音素などを取り上げ、それらの音韻的特徴を分析する。

アルゼンチンのスペイン語は、スペイン（国）のスペイン語とは音韻的に異なる部分もあり、中南米の中でも地方差があるため、ここでは筆者が学んだ「アルゼンチンのスペイン語」という限定をすることにきめた。だが、アルゼンチンのスペイン語にも地方差が激しく、国の政治・経済の中心である首都ブエノス・アイレスのスペイン語を分析するということで、範囲を更に限定した。

従来のアルゼンチンの日本語教育は、主にアルゼンチンに住む日系人を対象として行なわれていた。つまり、日本人の両親・祖父母などを持つ子弟たちのための教育である。日系人である生徒にとって、日本語は「身近な言語」・「よく耳にすることができる言語」であると思われ、彼らのための日本語教育は「国語教育的」であった。だが、今では1世（日本人移民）も少なくなり、アルゼンチン社会での日系人の活躍も増えたため、日本語への関心を示さない日系人も多く、日系社会の日本語教育は「外国語教育」へと変化している。更に、距離的にもっとも日本からはなれたアルゼンチンだが、第二次世界対戦後、急激な経済成長を成し遂げた日本・技術の先端を誇る日本への関心が高まりつつあるため、日本語を学習するアルゼンチン人も増えている。このようなことからここでは、アルゼンチンのスペイン語母語話者が日本語を学習する場合に、注意すべき日本語の音について考えたいと思う。

日本語と同じ音素に関しては特に取り上げる必要はない。日本語に似ている音素についてはその違い

を指摘し、スペイン語にはない音素に関しては特別な注意をはらう必要がある。アルゼンチンで日本語を教える立場に置かれた時、このような日本語とスペイン語の音韻的特徴の分析は非常に役立つはずである。

2. 本論

ここでは、五十音図の順番に日本語の音素を取り上げ、それらをスペイン語の音素と比較しながら進めていく。共通する音素は特に扱わないが、スペイン語にはない日本語の音素や、スペイン語とはやや異なるものに焦点をあてながらその音韻的特徴について述べる。

1) ア・イ・ウ・エ・オ

この中で特に取り上げる必要のある母音は、「ウ」である。その他の母音に関しては、スペイン語の母音と同じ要領で発音すれば良い。

スペイン語の“u”は唇を丸くし、前に突き出すようにして発音される。一方、日本語の「ウ」は、非円唇（唇を丸めない）なのである。唇を丸めることによって、唇がやや前に突き出るので、舌の位置が後退してしまう。日本語の非円唇な「ウ」は、スペイン語の円唇な“u”よりも舌の位置がやや前に移動しているということになる。スペイン語の“u”は、日本語の「ウ」より強く発音されることも多いと言われている。

微妙な違いではあるが、どの言語でも母音は重要な役割をはたしているの、違いを学習者に指摘して置く必要があると思われる。スペイン語話者への日本語の発音指導の際、日本語の五十音図のウ段にあたる全ての音素が、スペイン語とは少し異なるということになるので、教師は常に注意をはらう必要がある。

2) カ・キ・ク・ケ・コ

ウ段である「ク」以外の音素は、スペイン語にも存在しているので、特に取り上げる必要はない。

3) サ・シ・ス・セ・ソ

五十音図のサ行の内、「シ」の音素が特殊だとされている。その他の音素は、「無声歯茎摩擦音+母音」として発音されるが、「シ」だけは「無声歯茎摩擦音+母音」という組み合わせになる。(ウ段に関しては今まで述べた通りである)

だが、無声後部歯茎摩擦音である「シ」の音は、スペインのスペイン語にはないが、アルゼンチンのスペイン語では存在する音である。特に首都ブエノス・アイレスでは、「ll」や「y」の文字の後に母音が付くと、無声後部歯茎摩擦音+母音という音になる。(スペインでは、「ll」を無摩擦硬口蓋側面音、「y」は有声硬口蓋摩擦音のように発音される。他のスペイン語圏では、両方の文字を有声歯茎摩擦音として読む地域もある)

「シ」は、アルゼンチンのスペイン語に存在する音なので、特に指導する必要はないが、サ行音の1音だからといって、「シ」を英語の「si」の綴りのように発音しないよう、指導しなければならない。

4) タ・チ・ツ・テ・ト

タ行の音素／t/には、三つの異音から成り立っている：(1)「タ・テ・ト」(2)「チ」(3)「ツ」。(1)番の「タ・テ・ト」は、スペイン語の「t」+「a・e・o」で綴られるもので、スペイン語話者にとっても馴染みのある音素である。(2)番の「チ」に関しては、「chi」の綴りとしてスペイン語でも発音される音である。問題になるのが、(3)番の「ツ」の発音である。スペイン語話者にとっては、難しい音素だと言われている。スペイン語の「tu」とは、かなり響きが違うので、「ツ」に関しては、発音練習を多めに必要とされると思われる。

5) ナ・ニ・ヌ・ネ・ノ

日本語のナ行に関しては、スペイン語にも存在する音なので、細かな指摘は必要ではないと思われる。

6) ハ・ヒ・フ・ヘ・ホ

日本語のハ行に近い音素がスペイン語にもあるが、

異なる部分を指摘する。

ハ行音の内、「ヒ」の子音部分に比較的似ている音素がスペイン語にある。スペイン語で「ji」や「gi」という綴られる単語が、日本語の「ヒ」に近い音として発音される。口蓋摩擦音「ヒ」に対して、スペイン語の場合は軟口蓋摩擦音であるので、スペイン語の音の方が、やや後ろ寄りの位置で狭めが作られているということが言える。だが、細かな部分まで学習者に指摘すると、混乱させることになるので、「ヒ」に関しては、特に注意する必要がないと思われる。

日本語の「ハ・ヘ・ホ」は、声門摩擦音[h]で発音されるが、スペイン語の「ハ・ヘ・ホ」にあたる音は、日本語より後ろの位置で調音していることがわかる。残された「フ」に関して言えば、最も近いスペイン語の音素としては、無声唇歯摩擦音[f]がある。日本語の「フ」の場合、上下の唇を極端に近付かせ、その狭い両唇の隙間から息がもれるようにして調音されるが、一方スペイン語の無声唇歯摩擦音[f]は、上の前歯を下唇に軽くあて、隙間から摩擦を伴った息を出す形で発音される。ウ段である「フ」は、非円唇であるので、そのことにも注意しながら、歯ではなく両唇だけで発音する日本語の「フ」と、スペイン語の[fu]の違いを学習者に説明が必要である。

7) マ・ミ・ム・メ・モ

ウ段である「ム」の母音の部分以外は、スペイン語にある音素ばかりなので、指導の際に特別な指摘は不要である。

8) ヤ・ユ・ヨ

「ヤ・ユ・ヨ」に関して言えば、硬口蓋半母音(あるいは半子音)[j]は、スペイン語にも存在する音である。「i」の後に他の母音が付くと、スペイン語では二重母音として扱われるが、この時の「i」は普通の母音[i]よりも継続時間が短く、日本語の[j]と同じように発音されるのである。「ユ」の場合のみ、ウ段に関する説明を思い出してもらう必要がある。

9) ラ・リ・ル・レ・ロ

日本語のラ行音は、そり舌はじき音であり、舌尖

をそり上げて歯茎をこすりながら前へ倒している時に音を出しているのである。スペイン語の場合、[l]と[r]の区別がされるが、その他に振動音（震え音・まき舌音）が存在する。この3種類の音素の中で、日本語のそり舌はじき音に最も似ているのが、歯茎はじき音[r]である。単独では日本語のラ行音よりやや強いが、自然な会話文の中に出てくる場合、日本語のラ行音のように発音されることがある。それほど厳密な指導は必要ではない。

10) ワ・ン

「ワ」は、両唇軟口蓋半母音（あるいは半子音）であるが、スペイン語にも存在する音である。「ン」は日本語の特殊拍のひとつであり、「はねる音」とも呼ばれるが、かなり複雑な相補的分布を成している。しかし、いずれも後に来る子音と調音点の影響による変化なのである。スペイン語にない音が含まれる場合もあるが、発音による問題はないと思われる。だが、スペイン語の“n”とは違って、日本語の「ン」には1拍分の価値があるということを学習者に理解してもらうことが大切である。

11) ッ

「促音」とも呼ばれる日本語の小さな「っ」も、「ン」と同様に日本語の特殊拍であり、後に来る子音（無声閉鎖音あるいは歯擦音__外来語を除く）の影響を受けて複雑な変化をみせる音である。促音の異音は独立したものではないので、後続の子音と同じ調音点と調音方法をもつ異音として用いられる。このような音素はスペイン語にはないので、小さな「っ」があらわれる場合、休止を置いて、初期段階では極端に促音の存在を学習者に理解させる必要がある。学習者の言語にはない音素は、他の音によって置き換えられたり、無視されたりする傾向があるので、初めの内は教師の細かな指導が大切である。

12) 濁音

ガ・ギ・グ・ゲ・ゴ：日本語では、語頭のガ行音は有声軟口蓋閉鎖音であり、語中では軟口蓋鼻音として発音されることがある。[g]という音素はスペイン語にも存在するが、日本語での「鼻濁音」と呼ばれる音は存在しない。軟口蓋鼻音は、[g]という音声の交替であり、有声軟口蓋閉鎖音[g]を語

中に用いても、その違いは微妙である。日本語のガ行を弱く発音した時の音に近い有声軟口蓋摩擦音が、[g]の異音として語中で用いられることから、スペイン語話者である学習者も直観的に区別する必要があるかもしれない。日本国内でも「ガ行鼻濁音」を区別しない地域も存在するので、細かな指導は必要ではないと思われる。

ザ・ジ・ズ・ゼ・ゾ：全てのザ行音はスペイン語にはなく、指導の際には十分に注意をはらわなければいけない。有声歯茎破擦音[dz]であるザ行音（「ジ」だけが有声後部歯茎破擦音）は、スペイン語話者にとっては難しい音である。だが、蜂やはえのような虫が飛んでいる時の音を表現する場合、母音を含まない[dz]が使用されるので、この例を用いて説明すれば馴染みのない音としての違和感がなくなると言える。

ダ・デ・ド：スペイン語にも存在する音ばかりなので、特に問題はない。（「ヂ」は「ジ」と同じ音として、「ヅ」は「ズ」と同じ音として扱う）

バ・ビ・ブ・ベ・ボ：英語とは違って、スペイン語の場合“b”と“v”の区別がなく、両方とも日本語と同じように有声両唇閉鎖音[b]として発音される。

13) 半濁音

バ・ビ・ブ・ベ・ボ：このような音素がスペイン語にも存在するので、ここでは取り上げない。

14) 拗音

キャ・キュ・キョ：小さな「ヤ・ユ・ヨ」であらわされる「拗音」は、「キャ・キュ・キョ」の場合、無声軟口蓋閉鎖音[k]＋ヤ行音の「ヤ・ユ・ヨ」の音の前に付くのだが、両方ともスペイン語にある音なので、学習者にとっては学びやすいものである。（子音部分が次に来る拗音の影響を受けることもある）

シャ・シュ・シヨ：「シャ・シュ・シヨ」は、「シ」の要領で発音した後、軟口蓋半母音[j] プラス [a _u_o] の組み合わせ（つまり「ヤ・ユ・ヨ」）として発音されれば良い。ウ段である「シュ」は、やや前進よりに発音される。特にアルゼンチンのスペイン語話者にとっては問題のない音だと言える。

チャ・チュ・チヨ：「チャ・チュ・チヨ」の場合、「チ」と同じ音と硬口蓋半母音（ヤ・ユ・ヨ）の組

み合わせによってできる音なので、スペイン語話者にとっては習得しやすい音である。(スペイン語で、“cha”・“chu”・“cho”と綴られる時の音と同じである)

ニャ・ニユ・ニョ：「ニャ・ニユ・ニョ」は、「ニ」の硬口蓋鼻音の要領で硬口蓋半母音(ヤ・ユ・ヨ)を発すれば良いのである。学習者にとって難しい音ではない。

ヒャ・ヒュ・ヒョ：「ヒャ・ヒュ・ヒョ」に関しては、「ヒ」で注意された点を考慮に入れながら、拗音「ヤ・ユ・ヨ」を発音してもらう必要がある。

ミャ・ミユ・ミョ：[m]音と拗音の組合せで発音すれば良いので、拗音に関する注意だけで十分である。

リャ・リュ・リョ：一方、「リャ・リュ・リョ」は、そり舌はじき音である「リ」に注意し、硬口蓋半母音(ヤ・ユ・ヨ)との組み合わせで発音すれば良い。

15) 拗音十濁音

ギャ・ギユ・ギョ：「ギ」と拗音が組み合わさってできた音なので、今までと同じ要領で指導すれば良い。

ジャ・ジュ・ジョ：唯一、有声後部歯茎破擦音である「ジ」は、無声後部歯茎歯擦音として発音される傾向があり、有声歯茎破擦音[dz]として発音しないよう注意しなければならない。(スペイン語話者でも地域によっては“ll”や母音の前の“y”と綴られる単語が、「ジャ・ジ・ジュ・ジェ・ジョ」として発音される場合もあるが、アルゼンチンの場合は違う)「ジャ・ジュ・ジョ」は、「ジ」と同じような口の構えで、拗音(硬口蓋半母音)を発音すれば良いのだが、スペイン語話者の中でもアルゼンチンのス

ペイン語を使う人にとっては難しい音である。

ビャ・ビュ・ビョ：「ビャ・ビュ・ビョ」は、有声両唇閉鎖音[b]に硬口蓋半母音との組合せでできているので、特に難しい音ではない。

16) 拗音十半濁音

ビャ・ビュ・ビョ：スペイン語母語話者にとって、特に問題ない学習しやすい音だと思われる。

3. 結論

以上ここでは、スペイン語にはない音素やスペイン語とはやや異なる日本語の音素を取り上げた。その中でも、次にあげる音素に関して、教師は十分注意した指導を行なわなければいけないと思われる。

「ウ」とウ段に含まれる音、「ツ」、「フ」、ザ行、はねる音「ン」、促音「ッ」などである。

外国語を教える際に「どこまで徹底した発音指導を行なうべきか」という問題がよく取り上げられるが、その判断は難しい。細か過ぎる発音指導では生徒もあきってしまうし、やる気を失ってしまう恐れがある。

他の外国語学習者としての個人的な経験では、その言語の全ての音素を1度で説明されるよりは、2・3回にわけて説明してもらった方が学習しやすく、その後間違えて発音をしている時には必ず指摘してもらいたい。教師の十分な注意力が必要とされる。

ここでは、スペイン語とは異なる日本語の音素について取り上げたが、指導方法に関しては多くの課題が残されていると思われる。



新翻訳エンジン採用で更に翻訳精度を向上 英日翻訳支援ソフト「PowerE/J Ver.3.0」

シャープ株式会社

シャープでは、長年にわたる機械翻訳の研究開発のノウハウをパソコン用ソフトとして実現した「PowerE/J」シリーズを一昨年より商品化、インターネット英文情報をレイアウトそのままに翻訳する「E/J for WWW」や、入力した英文テキストを翻訳する「E/J for Text」、日本語の質問形式で手軽に英文メールが作成できる「英文メール作成支援」、受信英文メールを自動的に翻訳する「E/J for Mail」など多彩な機能を搭載しておりますが、この度、Ver.3.0で新たな翻訳エンジンを採用、更に翻訳精度を向上し、実用的な新機能も加えました。

《新翻訳エンジンを支える優れた技術》

「PowerE/J Ver.3.0」では、下記のような新翻訳法により、更に読みやすい訳語表現を実現しました。

1) 英英変換（原文自動前編集）方式を採用

省略・挿入句を含む文や長文など翻訳が困難な原文を訳しやすい英文に変換してから日本語に翻訳します。

〔翻訳例〕 He doesn't want to speak English, but she is happy to.

<Ver.2.1>彼は、英語（彼女が幸福である）を話すことを望まない。

<Ver.3.0>彼は、英語を話すことを望まない、しかし、彼女は、そうすることを嬉しく思う。

2) 英日基本辞書の連語情報、重要動詞情報を拡充

基本辞書の連語情報を約1000フレーズ追加収録、重要な動詞の使用方法などの情報も拡充し、原文のニュアンスがより正確に反映されるようになりました。

〔翻訳例〕 Foreign diplomats have immunity from taxation.

<Ver.2.1>外国の外交官は、課税に対する免疫がある。

<Ver.3.0>外国の外交官は、課税の免除を受ける。

3) 原文の語順に沿った読みやすい訳文表現

報道文などによく見られる読み下し的な翻訳手法を採用、原文の語順に沿って後戻りせずに翻訳することにより、更に読みやすくなりました。

〔翻訳例〕 ABC Co. said its car sales rose 27% from "rock bottom" year-ago level.

<Ver.2.1>ABC社は、その自動車売上げが「最低」の前年のレベルから27%増加する、と言った。

<Ver.3.0>ABC社によれば、その自動車売上げは、「最低」の前年のレベルから27%増加した。

《新機能》

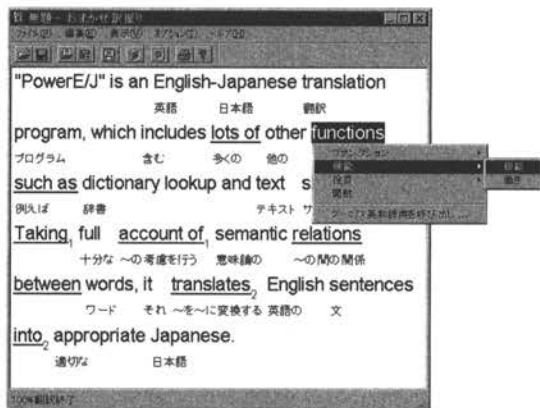
★「ななめ読み翻訳」

インターネット英文情報の重要文のみを抽出し翻訳、情報のポイントのみ素早く把握できます。また、原文の段落ごとに見出しが自動的に作成され、任意の見出しや段落だけを翻訳することもでき、固有名詞や日付、頻繁に出てくる単語を含む文を検索し翻訳も可能。



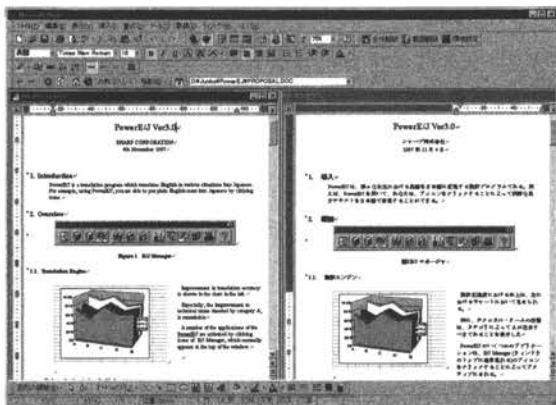
★「おまかせ訳振り」

英文の単語や連語の下に自動的に訳振り表示します。訳振りする単語のレベルは初級・上級の選択が可能。離れた連語まで訳振りされ、辞書を引くまでもなく、英文が読めます。また、よく利用する英文のジャンルを設定しておけば、5つの専門用語辞書（経済、インターネット用語、医学、機械工学、バイオ）の中から最適な訳を選んで表示。単語を右クリックすれば別の訳語も確認でき、ジーニアス英和辞典の訳語も素早く確認できます。（本機能は、英国オックスフォードに構えるシャープヨーロッパ研究所（Sharp Laboratories of Europe, Ltd）とシャープ株式会社の共同開発によるものです）



★「Word 翻訳」

Microsoft Word97/98（日本語版）で作成された英文もレイアウトそのままに翻訳できます。訳文だけを別ファイルに保存も可能。



《その他の特長》

・豊富な辞書語数（計約47万語）

人気辞書の「ジーニアス英和辞典」(大修館書店)、「プログレッシブ和英中辞典」(小学館)をはじめ、学習研究社の「英和・和英・国語・漢和辞典」も搭載。翻訳基本辞書、専門辞書と合わせ翻訳を強力にサポートします。

・英文作成に役立つ「用例検索」

英訳したい日本語を入力すれば、文章の中からキーワードを抽出し、そのキーワードを含む用例やキーワードに関連する用例をジーニアス英和辞典・プログレッシブ和英中辞典などの搭載辞典から検索して表示。豊富な用例を参考に英文作成ができます。

（日本経済新聞社 CD-ROM 版「英文ビジネスレター文例大辞典 Ver. 1/Ver. 2」(別売)を検索対象に加えることも可能）

その他、従来機能として、インターネット英文情報をレイアウトそのままに翻訳する「E/J for WWW」や、入力した英文テキストを翻訳する「E/J for Text」、日本語の質問形式で手軽に英文メールが作成できる「英文メール作成支援」、受信英文メールを自動的に翻訳する「E/J for Mail」など多彩な機能を搭載。

《PowerE/J シリーズに関するお問い合わせ先》

シャープ株式会社コンシューマーセンター
西日本相談室 TEL (06) 621-4649
東日本相談室 TEL (043) 297-4649

・Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation 及びその他の国における登録商標です。

・英文メール作成支援のデータは、(株)インターグループが開発した英文レターのテンプレートデータ及び英文レター作成ソフト「レターナビゲータ」に基づいており、著作権はインターグループ社にあります。

動作環境

OS : Windows95 (Windows98で動作確認済)

メモリ : 16MByte 以上

ハードディスク : 26MB (最小) ~ 124MB (最大)

価格 12,000円 (税別)

The 翻訳オフィス

株式会社 東芝

1. はじめに

東芝は、Microsoft® Office に含まれる 3 大ソフト (Microsoft® Word、Microsoft® Excel、Microsoft® PowerPoint®) 上から英日・日英の双方向の翻訳が簡単にできる「The 翻訳オフィス」を発売いたしました。

新商品は、Microsoft® Office の Word、Excel、PowerPoint® に翻訳をアドインして手軽に英日・日英の翻訳ができます。約 23 万語の英日基本辞書を搭載し、クリップボードに入った文を自動的に翻訳したり、インターネットの情報をレイアウトを残したまま翻訳できる機能など、他のアプリケーションとの連携も充実しています。さらに、ユーザ固有の言い回しに翻訳できるなど、カスタマイズ機能も充実し、初心者から上級者までさまざまな翻訳ニーズに応えた翻訳環境を提供します。

2. 機能のご紹介

(1) Word 連携翻訳

Word に翻訳をアドインします。ドラッグした範囲の翻訳だけでなく、かな漢字変換感覚でタイプしながら翻訳し Word に入力できます。全文翻訳では文書全体を一回の指示で翻訳し、図 1 のようにレイアウトを復元した翻訳ができます (注 1)。英語の文書の欲しいところだけ日本語にしたり、日本語を入力して英語の文書を作成できます。最新の Word98 にも対応しています。(Word95/97/98 対応)

(2) Excel 連携翻訳

Excel に翻訳をアドインします。ドラッグしたセルを翻訳するだけでなく、かな漢字変換感覚でタイプしながら翻訳し、Excel に入力できます。セル属性も保存されますので表のイメージが保たれます。(Excel95/97 対応)

(3) PowerPoint® 連携翻訳

PowerPoint® に翻訳をアドインします。スライド上のドラッグした範囲を翻訳するだけでなく、かな漢字変換感覚でタイプしながら翻訳および入力がで

きます。英語のスライドを翻訳して日本語のスライドを作ったり、日本語を入力し英語のスライドを作成したりできます。(PowerPoint®97 対応)



図 1 Word 連携翻訳

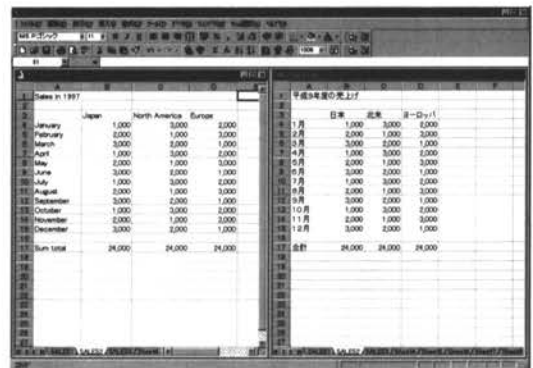


図 2 Excel 連携翻訳

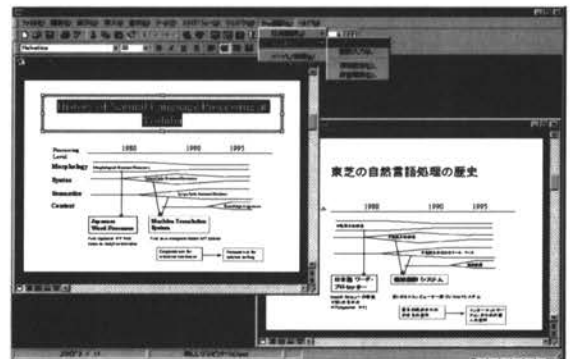


図 3 PowerPoint 連携翻訳

(4) 他アプリケーションとの連携翻訳

Microsoft® Office 以外のアプリケーションでは、ワンタッチ翻訳機能を利用できます。

ワンタッチ翻訳機能では任意のアプリケーションのドラッグした範囲を自動翻訳します。(注2)

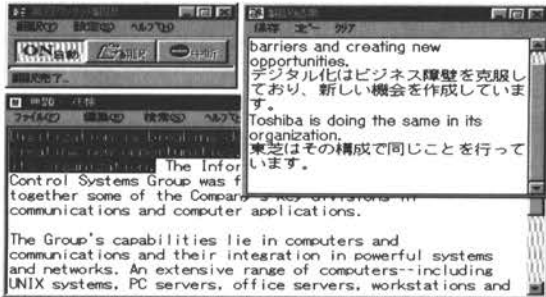


図4 ワンタッチ翻訳

(5) ファイル翻訳

ファイルを一括翻訳する機能です。テキスト形式のファイルだけでなく HTML 形式、RTF 形式の翻訳が可能です(注1)。

(6) その他の機能

英日翻訳は約23万語、日英翻訳は約8万語の基本辞書を用いて、高度な翻訳を実現します。利用者が20万語まで登録可能なユーザ辞書や、別売りの専門用語辞書を組み合わせることにより専門性の高い文書の翻訳にも高い品質が得られます。

また、文体の設定や、助動詞の訳し方などを指定する翻訳環境設定機能を利用することで好みの翻訳結果を得ることができます。

(注1)：一部復元できない情報もあります。修飾の位置によっては翻訳結果に影響が出る場合があります。

(注2)：クリップボードにコピーできる文字データに限ります。

3. 動作環境

ハードウェア：

機種：PC/AT 互換機、PC98シリーズ

CPU：Pentium®以上推奨

必要メモリ量：Windows®95の場合：32MB 以上

Windows NT®の場合：40MB 以上

必要ディスク容量：50MB 以上

ソフトウェア：

OS：日本語 Windows®95

日本語 Windows NT® WORKSTATION4.0

アドイン可能なツール：

Word95/97/98、Excel95/97、PowerPoint®97

(いずれも日本語版)

その他：インストール時には、CD-ROM 装置が必要となります。

注意：本製品に Office、Word、Excel、PowerPoint® は付属していません。

- Microsoft、Windows、Windows NT、PowerPoint は米国マイクロソフト社の米国ならびにその他の地域における商標です。
- Pentium は Intel Corporation の商標です。
- その他の名称は、各社の商標、登録商標の場合があります。

お問い合わせ先

株式会社 東芝 コンピュータ・ネットワーク
プロダクト事業部

TEL 03-3457-2725

製品情報 URL：

<http://eiplaza.toshiba.co.jp>

カタログご請求先 URL：

<http://eiplaza.toshiba.co.jp/pcserver/astransacctlg.htm>



機械翻訳関連ソフトウェア一覧表(1)

ソフトウェア名		対象言語	基本辞書	OS	メモリ
1	訳師如来 英日版 Ver. 2.0	英→日	20 万語	Windows95, NT3.51	12MB-
	訳師如来 英日版 Ver. 1.5	英→日	20 万語	Mac7.1	10MB-
	訳師如来 日英版	日→英	20 万語	Windows95, NT3.51	12MB-
	訳師如来 英日/仏日/独日	英仏独日		Windows95, NT3.51	12MB-
	訳師三尊 Ver. 2.0	英日		Windows95	16MB-
2	パーフェクト日英訳せ!!ゴマ Ver. 2.0	日→英	12.4 万語	Windows95, NT4.0	20MB-
	訳せ!!ゴマ プロフェッショナル	日→英	30 分野, 21 万語	Windows95, NT4.0	20MB-
3	TransLand/JE Ver. 2.0	日→英	5.5 万語	Windows95, NT4.0	16MB-
	TransLand/JE Ver. 2.0	日→英	5.7 万語	MacOS8	12MB-
	TransLand/JE Ver. 2.0 for EUDORA	日→英	5.5 万語	Windows95, NT4.0	16MB-
	TransLand/JE Ver. 2.0 for EUDORA	日→英	5.7 万語	MacOS8	12MB-
	TransLand/JE 専門用語辞書 Ver. 2.0	日英	38 分野, 81 万語	ハイブリッド	
4	ワードザ・国際人 EJ Ver. 4.1	英→日	12 万語	Windows95	12MB-
	インターネットザ・国際人 EJ Ver. 4.1	英→日	12 万語	Windows95	12MB-
	ワードザ・国際人 JE Ver. 2.0	日→英	8 万語	Windows95	8MB-
5	WD-01 SW	英→日	10.6 万語	ワープロ書院	
	Power E/J Ver. 3.0	英→日	11.4 万語	Windows95	16MB-
6	日韓機械翻訳システム	日→韓	10 万語	MS-DOS5.0	3.8MB-
	韓日機械翻訳システム	韓→日	10 万語	MS-DOS5.0	3.8MB-
7	PIVOT/JE	日→英	9 万語	EWS-UX/V	40MB-
	PIVOT/EJ	英→日	7 万語	EWS-UX/V	32MB-
	英日翻訳アダプタ II CROSSROAD	英↔日	10 万語	Windows95, NT4.0	32MB-
	英日辞書引き君	英和	9 万語	Windows	8MB-
	英文名文メイキング Ver. 1.0	和英	10 万語	Windows95, NT4.0	16MB-
8	ATLAS EJ for Windows95/NT	英→日	13.6 万語	Windows95, NT4.0	16MB-
	ATLAS JE for Windows95/NT	日→英	13.6 万語	Windows95, NT4.0	16MB-
	翻訳サーフィン Ver. 4.0	英→日	15 万語	Windows95, NT4.0	16MB-
	電辞海	英和・和英	32 万語	Windows	4MB-
	日本語でサーチ Ver. 1.0		15 万語	Windows95, NT4.0	16MB-
9	Pensee/V Ver. 2.0 英日版	英→日	7 万語	Windows95, NT4.0	16MB-
	Pensee/V Ver. 2.0 日英版	日→英	9 万語	Windows95, NT4.0	16MB-
	Pensee/V Ver. 2.0 日英版	英↔日		Windows95, NT4.0	16MB-
	Pensee for Internet	英→日		Windows95, NT3.51	16MB-
	Pensee WWW Server	英→日		Solaris1.x	32MB-
	Pensee 辞書 Pro	英日版	一般編 38 万語 技術編 38 万語	Windows95, NT3.51	16MB-
	Pensee 辞書 Pro	日英版	一般編 38 万語 技術編 38 万語	Windows95, NT3.51	16MB-

1998年7月現在

販売価格 (円)	販売会社	問い合わせ先		
		電 話	FAX	担当販売
5,825	CSK	(03) 5956-9377	(03) 5956-9378	生産技術部、商品サポート部 yakushi@mtmng.csk.co.jp http://www.csk.co.jp/products/nyorai/
5,825				
5,825				
14,800				
8,000				
19,800	エー・アイ・ソフト	(03) 3376-7122	(03) 3376-5901	エー・アイ・ソフト (株) http://www.aisoft.co.jp/
19,800				
39,800	ブラザー	(052) 824-3420	(052) 825-0311	ブラザー販売 (株) 情報機器事業部 soft.sales@brother.co.jp http://www.brother.co.jp/transland/
69,800				
12,800				
12,800				
29,800				
29,800	三洋インフォメーションビジネス	(06) 443-5144	(06) 448-4659	営業統括部国内営業部 http://www.sanyo.co.jp/SIB/
9,800				
25,000				
150,000	シャープ	(06) 621-4649		シャープ株式会社コンシューマーセンター http://www.sharp.co.jp/sc/excite/soft_map/soft.htm http://www.sharp.co.jp/
12,000		(043) 297-4649		
298,800	日立情報ネットワーク	(03) 5763-1361	(03) 5763-1364	営業本部 NS 事業部 http://hinet.co.jp/
298,800				
500,000	NEC	(03) 3456-8343	(03) 3456-6348	NEC EC 推進本部、 汎用アプリケーション事業部 meshplus@apinfo.mt.nec.co.jp http://meshplus.meshnet.or.jp/adp2/ http://www.nec.co.jp/98/
500,000				
9,800				
9,800				
19,800				
58,000	富士通	(03) 3730-3136	(03) 5462-2344	富士通 (株)、 ソリューション販売推進部 http://jpark.ext.fujitsu.co.jp/ATLAS/
58,000				
8,800				
12,800				
6,000				
38,000	沖ソフトウェア & オージス総研	(03) 5970-9952		沖ソフトウェア (株) 営業部、 オージス総研システムプロダクツ部プロダクツ営業部 pkg@okisoft.co.jp http://www.okisoft.co.jp/
38,000				
58,000				
9,800				
148,000				
28,000				
28,000				

機械翻訳関連ソフトウェア一覧表(2)

ソフトウェア名		対象言語	基本辞書	OS	メモリ
10	X-EJ 2/W	英→日	6 万語	Windows, NT	4MB-
	X-EJ	英→日	5 万語	MS-DOS3.1	640KB-
	X-DIC/W	英↔日	6 万語, 5.5 万語	Windows, NT	4MB-
	X-DIC 専門用語辞書	英和・和英	3 分野, 3 万語	Windows, NT	
11	Logo Vista EtoJ Pro	英→日	13 万語	Windows95, NT4.0	16MB-
	Logo Vista EtoJ Pro	英→日	13 万語	Mac	16MB-
	Logo Vista EtoJ Personal	英→日	13 万語	Windows95, NT4.0	16MB-
	Logo Vista EtoJ Personal	英→日	13 万語	Mac	16MB-
	Logo Vista EtoJ Internet Plus Ver. 4.0	英→日	13 万語	Windows95, NT4.0	16MB-
	Logo Vista EtoJ Internet Plus Ver. 4.0	英→日	13 万語	Mac	16MB-
	コリヤ英和 98! Ver. 3.0	英→日	13 万語	Windows95, NT4.0	32MB-
	コリヤ英和 Ver. 1.1	英→日	5.5 万語	Mac	7MB-
	これ英和	日→英	5.5 万語	Windows95	16MB-
	これ英和	日→英	5.5 万語	Mac	16MB-
	QuickTrans View Ver. 1.0	英→日	13 万語	Windows95, NT4.0	32MB-
	EtoJ ペントランスレータ	英→日	13 万語	Windows95/98	18MB-
12	ASTRANSAC Sun WS	英↔日	19 万語, 8 万語	UNIX	32MB-
	ASTRANSAC C/S	英↔日	19 万語, 8 万語	UNIX	32MB-
	ASTRANSAC C/S	英↔日	19 万語, 8 万語	Windows95, NT	32MB-
	ASTRANSAC for Windows Ver. 3.0	英→日	21 万語	Windows95, NT	16MB-
	ASTRANSAC for Windows Ver. 3.0	日→英	8 万語	Windows95, NT	16MB-
	ASTRANSAC for Windows Ver. 3.0	英↔日	21 万語, 8 万語	Windows95, NT	16MB-
	ASTRANSAC for Internet Ver. 2.0	英→日	21 万語	Windows95, NT3.51	16MB-
	ASTRANSAC for Internet Ver. 2.0	英↔日	21 万語, 8 万語	Windows95, NT3.51	16MB-
	Surf Mate	英→日	8 万語	Windows95	16MB-
	ASTRANSAC/Web	英↔日	19 万語, 8 万語	UNIX, Windows NT	32MB-
	The 翻訳オフィス	英↔日	23 万語	Windows95, Windows NT4.0	32MB- 40MB-
13	J・London Ver. 3/EJ	英→日	18 万語	Windows95, NT4.0	32MB-
	J・London Ver. 3/JE	日→英	18 万語	Windows95, NT4.0	32MB-
	J・London Ver. 3	英↔日	18 万語	Windows95, NT4.0	32MB-
	専門用語辞書	英日	31 分野, 63 万語	Windows	
	専門用語辞書	日英	34 分野, 67 万語	Windows	
	J・ソウル日韓版	日→韓	10 万語	Windows95, NT4.0	32MB-
	J・ソウル韓日版	韓→日	17 万語	Windows95	16MB-
	World Net/EJ	英→日	10 万語	Windows95, NT4.0	32MB-
	J・北京	中→日	16 万語	Windows95, NT4.0	32MB-
14	翻訳革命	英→日	7 万語	Windows95, NT4.0	16MB-
15	Dr. Surf Deluxe for Windows	英→日	43 万語	Windows95	32MB-
	Dr. Surf for Windows Ver. 2.0	英→日	7 万語	Windows95	16MB-
	Dr. Surf for Macintosh Ver. 2.0	英→日	7 万語	MacOS8	8.5MB-

1998年7月現在

販売価格（円）	販売会社	問い合わせ先		
		電 話	FAX	販売担当
48,000	スピリット	(03)3234-8041	(03)3234-8089	スピリット（株）
29,000				
48,000				
8,000				
97,000	カテナ&ロゴヴィスタ	(0423)38-1118	(0423)38-1079	カテナ（株）ソフトウェアプロダクツ事業部、 ロゴヴィスタ（株） sp_cs@catena.co.jp http://www.catena.co.jp/sp/ http://www.logovista.co.jp/
97,000				
39,800				
39,800				
12,800				
12,800				
7,800				
9,800				
12,800				
14,800				
6,500				
45,000				
700,000	東芝	(03)3457-2725		コンピュータ・ネットワークプロダクト事業部 admin@softpark.jpplaza.com http://eiplaza.toshiba.co.jp/products/transac/AFL/index.html
340,000				
340,000				
63,000				
63,000				
98,000				
12,800				
16,800				
8,400				
200,000				
16,800				
49,800	高電社	(06)628-8880	(06)628-2351	本社 http://www.mesh.ne.jp/KODENSHA/
49,800				
49,800				
29,800				
29,800				
198,000				
198,000				
12,800				
49,800				
14,800	松下電器産業	(03)3834-2921	(03)3834-3986	http://www.panasonic.co.jp/kme/pcsoft/honnkaku/honnkaku.htm
34,800	メディアビション	(03)3222-3908		(株)メディアビション http://www.mvi.co.jp/
12,800				
12,800				

機械翻訳関連ソフトウェア一覧表(3)

	ソフトウェア名	対象言語	基本辞書	OS	メモリ
16	インターネット 翻訳の王様	英→日	16 万語	Windows95, NT4. 0	32MB-
17	Transpad for Windows Ver. 3	英→日		Windows95/98, NT3. 5	8MB-
	Transpad NN for Windows	英→日		Windows95, NT4. 0	
	E-J BANK for Windows Ver. 6	英→日		Windows95/98, NT4. 0	32MB-
	E-J BANK China for Windows	英/中→日		Windows95/98, NT4. 0	32MB-
	J-E BANK for Windows Ver. 6	日→英		Windows95/98, NT3. 51	32MB-
	J-E BANK China for Windows Ver. 2	日→英/中		Windows95/98, NT4. 0	32MB-
	AlLogic Translator for Windows	英 / 仏 / 独 / 伊 / 西 / 葡 → 日		Windows95/98, NT4. 0	
18	PAT-Transer/ej	英→日	22 万語	Windows95, NT4. 0	25MB-
	Net Surfer/ej Ver. 3	英→日	13. 5 万語	Windows95, NT4. 0	16MB-
	Net Surfer/ej Ver. 3	英→日	13. 5 万語	MacOS8	17MB-
	英語 de めーる	日→英	8 万語	Windows95, NT3. 51	16MB-
	英語 de めーる	日→英	8 万語	Mac7. 1	7MB-
	PC-Transer/ej Ver. 5	英→日	20 万語	Windows95, NT3. 51	24MB-
	PC-Transer/ej Ver. 5	英→日	20 万語	Mac7. 1	12MB-
	PC-Transer/je Ver. 4	日→英	22 万語	Windows95, NT3. 51	24MB-
	PC-Transer/je Ver. 4	日→英	22 万語	Mac7. 1	9MB-
	全分野専門語辞書 Ver. 2	日英	19 分野, 95 万語	ハイブリッド	
	全分野専門語辞書 Ver. 2	英日	19 分野, 95 万語	ハイブリッド	
19	Power Translator Pro.	独・仏・西		Windows	
	Power Translator Pro.	独・仏・西		Mac	
	Power Translator	独・仏・西		Windows	
	Power Translator Standard	独・仏・西		Mac	
	Power Translator Ver. 6. 0	独・仏・西・伊・英		Windows95, NT	16MB-
20	たちまち翻訳 Ver. 2. 0	英→日	6 万語	Windows95, NT4. 0	24MB-
	HICATS 英日翻訳支援システム	英→日	6 万語	UNIX	
	HICATS 日英翻訳支援システム	日→英	6 万語	UNIX	
21	ロボワード Ver. 3. 0 [三省堂デイリーコンサイス英和/和英辞典版]	英↔日	12 万語	Windows95, NT4. 0	16MB-
	ロボワード Ver. 3. 0 [研究社新英和/新和英中辞典版]	英↔日	16 万語	Windows95, NT4. 0	16MB-

1998年 7 月現在

販売価格 (円)	販売会社	問い合わせ先		
		電 話	FAX	販売担当
7, 800	日本 IBM	0120-04-1992	(044) 200-8600	日本 IBM http://www.ibm.co.jp/software/internet/king/
14, 800	エー・アイ・ロジック	(03) 3798-4838	(03) 3798-4839	エー・アイ・ロジック http://www.ailogic.co.jp/
6, 800				
49, 800				
65, 000				
49, 800				
65, 000				
65, 000				
498, 000	ノヴァ	(03) 3820-1121	(03) 3820-1126	(株) ノヴァ sales@nova.co.jp http://www.nova.co.jp/ http://www.yamatane.co.jp/transer/
29, 800				
29, 800				
29, 800				
29, 800				
198, 000				
198, 000				
198, 000				
198, 000				
98, 000				
98, 000				
148, 000	イリス インターナショナル	(03) 3542-0950	(03) 3542-0974	E-Mail: iris@mxk.meshnet.or.jp http://www.meshnet.or.jp/iris/
148, 000				
58, 000				
58, 000				
58, 000				
9, 800	日立製作所	0120-55-0504	(045) 865-9001	日立オープンミドルウェア WWW-mk@soft.hitachi.co.jp http://www.hitachi.co.jp/soft/trans/
1, 000, 000				
1, 000, 000				
12, 800	サン・オーク	(0722) 70-6876	(0722) 70-6675	サン・オーク E-Mail: sanoak@sanoak.co.jp http://www.sanoak.co.jp/
14, 800				

第8回通常総会および関連行事の報告

アジア太平洋機械翻訳協会の第8回通常総会が、6月17日（水）13時30分から東京都港区芝公園の機械振興会館6階・6—66会議室で開催された。

本年は通常総会のあと、会員相互および役員、委員との交流懇親を目的として成果報告会、講演会、懇談会が開催され、合計67名の参加を得て各行事とも盛会であった。

[行事の全体プログラム]

行 事	内 容	時 間
第8回通常総会	第1号議案 '97年度事業報告 第2号議案 '97年度決算報告 第3号議案 '98年度事業計画 第4号議案 '98年度予算 第5号議案 役員改選	13:30～14:30
成果報告会	1. 技術動向調査委員会 報告 2. 市場動向調査委員会 報告 3. ネットワーク翻訳研究会 報告 4. MT Summit VII ファーストアナウンスメント	14:30～16:15
講演会	「大翻訳時代を迎えて」 東京大学教授 西垣通 氏	16:30～17:30
懇談会	立食パーティー形式の懇談会 (会場は、同会館6—67会議室)	17:40～19:00

[通常総会]

雨宮運営委員長の司会で定刻どおり開会し、出席84名（本人または代理人出席32、委任状52）で本総会の成立が報告された。田中会長の挨拶と議長就任、議事録署名人の選出のあと、上記の5件の議案が審議され、いずれも可決承認となった。

また、本年は役員の改選期に当り、理事14名、監事2名が選任され、同時に開催された臨時理事会で本誌25頁の役員紹介のとおり会長、副会長が選任された。

このあと、来賓の通産省機械情報産業局電子機器課長補佐三角育生氏から祝辞があり、14時30分に終了した。

なお、1998年3月末時点でのAAMTの会員数は法人会員34社、個人会員153名である。

[成果報告会]

1997年度1年間の活動成果が、技術動向調査委員会・村木一至委員長、市場動向調査委員会・坂本義行委員長、ネットワーク翻訳研究会・横山晶一座長から各々資料にもとづいて報告された。

また、来年9月にシンガポールで開催されるMT Summit VIIにつき、会員に対するファーストアナウンスメントが田中会長から行われた。（本誌26頁参照）

[講演会]

「大翻訳時代を迎えて」——The New Translation Wave——と題して東京大学社会科学研究所教授西垣通

氏から機械翻訳に関わる会員に内容豊かな提言があった。人間と違い機械は物理的・非歴史的存在であり、そこに人間と同じような深い推論をさせない方がよい、完璧な翻訳を目指さず大意を伝えることに努力すべきである等、多くのアドバイスをいただいた。

[懇談会]

会場を隣の6—67会議室に移し、奥平運営委員の司会で和やかな立食パーティーとなった。西垣講師も参加、田中会長はじめ多くの来賓、会員の挨拶、海外からの会員の出席もあってテーブルの料理がすっかりなくなるまでにぎやかに懇談が続いた。

事務局だより

役 員 の 紹 介

第8回通常総会および臨時理事会に於いて新しい役員が選任され、これから2年間の体制が確立しましたのでお知らせいたします。

(1998年7月現在、敬称略、順不同)

会 長	田中 穂積	東京工業大学大学院情報理工学研究科 教授
副会長	小谷 泰造	株式会社インターグループ 代表取締役
〃	辻井 潤一	東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻 教授
〃	丸山 武	富士通株式会社 代表取締役副社長
理 事	長尾 真	京都大学 総長
〃	吉川 英一	日本電気株式会社 常務取締役
〃	浅田 篤	シャープ株式会社 常任顧問
〃	岡村 正	株式会社東芝 取締役上席常務
〃	松香 茂道	株式会社日立製作所 専務取締役
〃	三木 弼一	松下電器産業株式会社 取締役
〃	牛尾真太郎	沖電気工業株式会社 常務取締役
〃	田中 達雄	社団法人日本電子工業振興協会 専務理事
〃	野村 浩郷	九州工業大学情報工学部知能情報工学教室 教授
〃	石崎 俊	慶応義塾大学環境情報学部教授
監 事	佐藤 清俊	社団法人日本電子工業振興協会 常務理事
〃	勝田美保子	株式会社十印 代表取締役

委 員 の 交 替

[運営委員会]

シャープ株式会社	退任	小川 潤三	
	就任	福持 陽士	情報システム事業本部ソフト事業推進センター 副参事

[技術動向調査委員会]

シャープ株式会社	退任	平井 徳行	
	就任	佐田 いち子	情報システム事業本部ソフト事業推進センター 係長

[編集委員会]

株式会社富士通研究所	退任	富士 秀	
	就任	大倉 清司	マルチメディアシステム研究所 ドキュメント処理研究部

MT Summit VII
September 1999 Singapore

AAMT 会長兼 IAMT 会長 田中穂積

AAMTは、来年の9月にシンガポールでMT Summit VIIを開催いたします。会員ならびに関係先の皆様の多数の参加を得、内容豊かな会議として成功するよう格別のご支援をお願いいたします。

1. MT Summit の歴史

日本が提唱して始まった機械翻訳国際会議「MT Summit」は、1987年9月に箱根で第1回会議を開催、以降2年ごとにアジア太平洋地域（AAMT）、ヨーロッパ（EAMT）、アメリカ（AMTA）の順で開催され、機械翻訳のグローバルな発展と交流に大きな成果をあげてきました。

MT Summit の開催状況

	開催地		年 月 日	参加人数
第1回	日本	箱根	1987年9月17日～19日	200
第2回	西ドイツ	ミュンヘン	1989年8月16日～18日	284
第3回	アメリカ	ワシントン	1991年7月1日～4日	310
第4回	日本	神戸	1993年7月19日～22日	230
第5回	ルクセンブルク	ヘミサイクル	1995年7月11日～13日	350
第6回	アメリカ	サンディエゴ	1997年10月29日～11月1日	320
第7回	シンガポール		1999年9月13日～17日	

2. 前回のサンディエゴサミットの状況

第6回 MT Summit は、昨年にアメリカ、サンディエゴで開催され、日本からは AAMT 調査団11名を含む28名が参加して国際的な討議、研究、交流を深めました。

その席で、田中穂積 AAMT 会長は IAMT 会長に就任、次回の MT SummitⅦを AAMT 主催により1999年にシンガポールで開くことを発表しました。

3. MT Summit VII Singapore の開催計画

(1) 開催期間

1999年9月13日(月)	Tutorials
14日(火)~16日(木)	Conference
17日(金)	Work-shop

(2) 開催場所 シンガポール国立大学内 “Kent Ridge Digital Labs (KRDL)”

(3) 参加予定人員 200名(内、日本から50名)

(4) 初期活動の状況

Program Committee	: 辻井潤一副会長が委員長となり、世界各国からのメンバー25名で構成
日本のメンバー	: 亀井真一郎 (日電) 梶 博行 (日立) 松井くにお (富士通) 伊藤悦雄 (東芝)

飯田 仁 (ATR)

Local Organizing Committee：シンガポール大学の4名の方々を中心に構成

General Committee：田中穂積会長を中心に近日中に編成予定

AAMT 運営委員会が企画運営を担当

(5) これからの広報活動

海外の IAMT、AMTA、EAMT に案内するとともに、国内の官公庁、大学、研究機関、ジャーナリズム、ユーザ、協力団体に向けて支援を依頼。

会員に向けては、AAMT Journal、MT News International のほか、AAMT ホームページで順次連絡。

事務局だより

委員および研究会メンバーの募集

当協会の活動は、会員の皆様の参加による委員会、研究会活動によって支えられています。

このうち、本年度から次の4つの活動を個人・法人両会員の方々の自由な参加により運営したいと考えております。

- | | | |
|----------------|------------------|---------|
| 1. 技術動向調査委員会 | 委員長 村木 一至 (NEC) | 委員 8 名 |
| 2. 市場動向調査委員会 | 〃 坂本 義行 (筑波女子短大) | 委員 10 名 |
| 3. 編集委員会 | 〃 野村 浩郷 (九工大) | 委員 3 名 |
| 4. ネットワーク翻訳研究会 | 座 長 横山 晶一 (山形大) | 委員 11 名 |

これら4つの委員会、研究会活動こそが、AAMT のエンジンとなり、エネルギーとなっております。昨年は各々、年4～6回の会合を開催して発表、討議、ヒアリング、交流等を積み重ねて参りましたが、今年も下記の計画で活動に入っております。

つきましては、各委員会、研究会とも新しい委員、メンバーを募集しておりますので、どうぞご参加ください。

事務局にお問い合わせいただければすぐに詳しい情報をご連絡いたします。原則として、参加申込み、各委員長の承認、メンバー登録、次回の委員会の開催案内という順序でご出席いただく予定です。

本年度の活動内容

技術動向調査委員会	①次世代機械翻訳技術の調査 Coling、ACL など主要学会を中心に、知的で頑健な機械翻訳システムのための技術開発動向を調査していく。 ②UPF プロジェクト翻訳辞書共通化技術の普及 PA の支援を受け、UPF 仕様検討委員会を設けて2年がかりで完成したIUPF (Universal Platform) 翻訳辞書仕様の業界デファクト化を図るため、技術、情報サービスと普及促進を行なう。
市場動向調査委員会	①最新の MT システムの市場動向につき、ジャーナリスト、研究者、専門家を招いて計画的にヒヤリングを行い、時代の流れを正しく把握する。 ②インターネットなどに習熟した学生、若い会社員と、コンピューターに慣れていない年配の初心者とにユーザ層を分けて市場調査を進める。
編集委員会	①AAMT Journal の年4回の編集発行。 ②MT News International のサポート ③AAMT の広報、宣伝の調査研究。
ネットワーク翻訳研究会	①ネットワーク上の翻訳システムについて、メンバー企業からヒアリングをしつつ調査研究を進める。 ②インターネット上で新たに出てきた言葉を収集してまとめ、UPF 上で供給することを図る。

翻 訳 の 曼 荼 羅 佐伯正剛著

AAMT の会員で翻訳家の佐伯正剛さんが、「翻訳の曼荼羅」という本を6月30日に発行しました。AAMT にも寄贈がありましたので、ご覧になりたい方は事務局にお立寄りください。

書名： 翻訳の曼荼羅——英語と翻訳の不思議——

著者： 佐伯正剛（翻訳家、AAMT 会員、JTA 理事）

出版： 株式会社図書刊行会（TEL：03-5970-7421）

価格： 1,800円

内容： 「この小冊子の表題を「翻訳の曼荼羅」としましたのは内容が総べて翻訳に関する項目の説明又は例示である為です。

上記の項目については一応次の6項目に分類しました。即ち「言葉と言語」、「俳句」、「和歌」、「諺」、「慣用語句」、「法律文書」、「特殊文書」、「万葉集」、「嘘」、「オノマトペ」、「キーワード」及び「街の英語」と以上に関する参考文献がその内訳です。

この小冊子作成の意図は日本語に於ける古今に亘り固有の万葉集・和歌・俳句の他、中国から受け継いだ漢字と固有の仮名を併用する特殊な形式を各分野別に且つ出来るだけ広範囲に又その英訳を併せ例示したことです。」
(著者のあとがきより)

イベント紹介

テクニカルコミュニケーションシンポジウム'98

AAMT と相互協力関係にある関連団体「テクニカルコミュニケーター協会」が、毎年恒例の TC シンポジウムを来る9月3日、4日の両日、新宿で開催しますのでご紹介します。

本年で10年目という歴史あるシンポジウムであり、AAMT も協力団体として参加しております。

テーマ モノ、メディア、コミュニケーション——人とモノとの対話

日 時 1998年9月3日（木）4日（金） 10：00～17：00

場 所 工学院大学（JR 新宿駅から徒歩4分）

後援・協力団体 通産省、日経新聞、JTF、JTA、AAMT など30団体

プログラム

- ・基調講演 「人とモノとのディバイネーション」——デザインディレクター・川崎和男氏
- ・分科会 「電子マニュアルをより良くするには」「テクニカルコミュニケーターの未来」「マニュアル制作のローカライゼーション」等8分科会
- ・特別セミナー 「Webサイトをデザインする」「マニュアルビジュアル化の進め方」等5セミナー
- ・発表 「辞書づくり」「文例参照翻訳」「語彙の問題」「文書作成の効率」等35ケース
- ・他に、展示会、交流会

参加料金 会員15,000円 非会員20,000円

問い合わせ先 TC 協会事務局

TEL：03-3368-4607

ホームページ：<http://www.jtca.org/>

AAMT
ジャーナル

No. 23
(July 1998)

発行 アジア太平洋機械翻訳協会
所在地 〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-12 芝公園真田ビル
TEL: 03-5473-7135 FAX: 03-5473-0569
E-mail: JDW05467@niftyserve.or.jp
ホームページ: <http://www.jeida.or.jp/aamt/>
編集委員会 野村浩郷(委員長) 大倉清司 奥西稔幸 山端 潔
事務局 中島泰雄 木谷 恵
印刷所 伸光写植印刷株式会社

